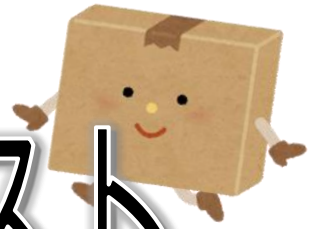


ダンボールコンポスト



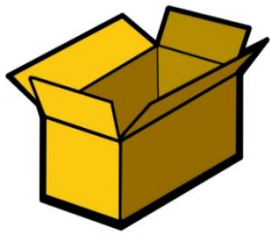
- 生ごみを栄養満点の肥料に変えてみませんか？ -

ダンボールコンポストとは？

自宅で簡単にできるダンボールを使用した「生ごみ処理機」のことです。食べ残しなどの生ごみを微生物の力で分解し、家庭菜園などで使える肥料を作ることができます。ごみが減るだけでなく、栄養満点の堆肥が作れるなど、資源の有効活用にもつながる環境にやさしい取り組みです。

準備するもの

ダンボール箱



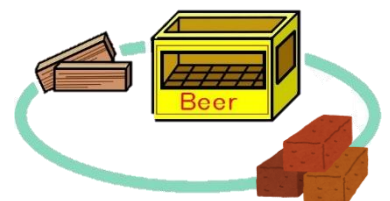
底に敷く
ダンボール

基材（中身）

- ・ ピートモス 9L
- ・ くん炭 6L



袋



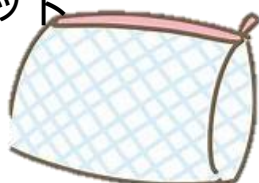
ダンボールを置く台
例）レンガや角材など

水



あると便利なもの

洗濯ネット



スコップ



温度計



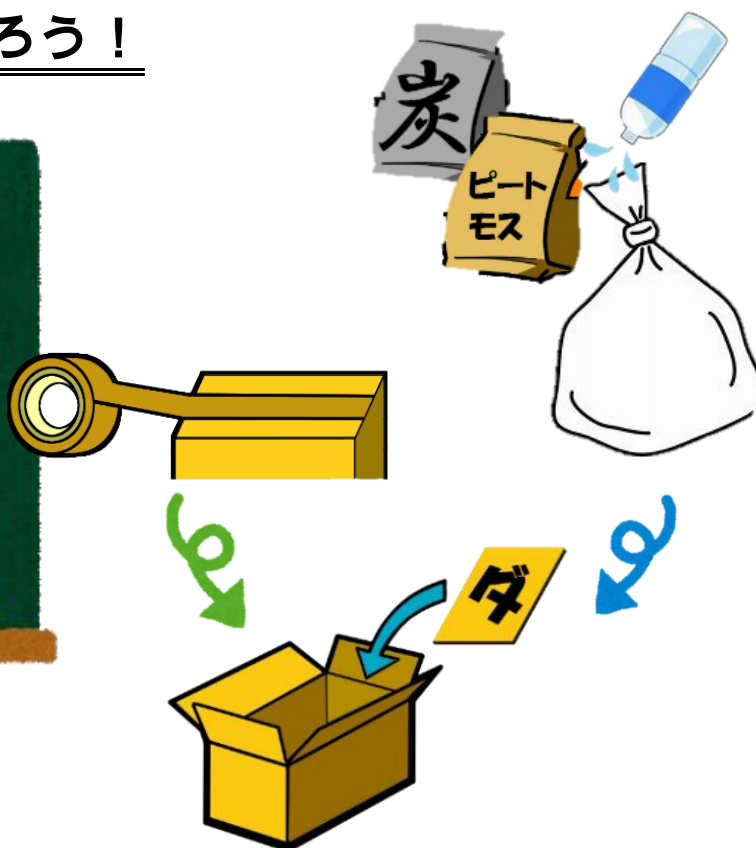
STEP 1 コンポストを作ろう！

①ダンボール箱の底などをガムテープでふさぐ。

※すき間から虫が侵入し、卵を産みつけるのを防止します。

②底が抜けない様に、ダンボール箱にダンボールを敷き、二重にして補強する。

③ピートモス 9L とくん炭 6L と水を袋の中に入れて、よく混ぜ（50 回程度）、箱に入れる。



STEP 2 コンポストを設置しよう！

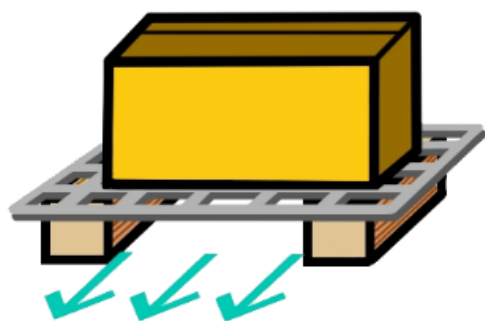
①風通しがよく、雨がかからない場所に置く。

例）軒下、ベランダなど

②ダンボール箱の底の風通しをよくするため、ブロックなどの上に置く。

ダンボールは水を含むと崩れる原因になります。湿気がこもらない様にしましょう。

ポイント

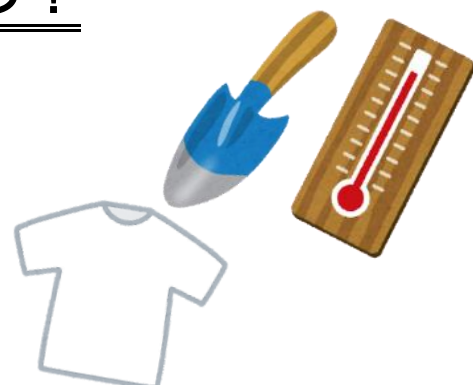


STEP 3 生ごみをいれる準備をしよう！

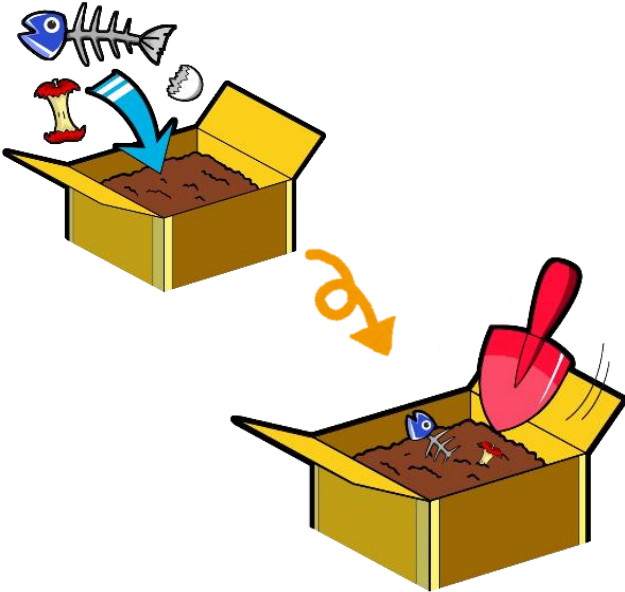
①発酵状況を確認するための『温度計』と生ごみを混ぜる『スコップ』を箱の中に入れる。

※外に置いておくと虫に卵を産み付けられることも…。

②虫がコンポストの投入口から入ってこないように、袖と首回りを縫ったTシャツを被せてカバーをする。



STEP 4 生ごみをいれてみよう！



①水を切った生ごみを入れる。

重要! 1日の投入量は300g程度にする！
生ごみは小さくすると分解が早い！

②空気が中にはいるように、スコップでよくかき混ぜる。

※ダンボールを傷つけないように注意！

③混ぜ終わったらしっかりカバーをする。



注意 分解しにくいもの！

- ・ 鳥や豚、牛などの骨
- ・ みかんなどの皮（防腐作用があるもの）
- ・ トウモロコシの皮など繊維質が多いもの
- ・ 玉ねぎの皮

※分解しにくいものは、そのまま残って匂いの原因になることも...



STEP 5 繰り返そう！

①温度や水気に気を付けて STEP 4 の工程を繰り返す。

※分解はすぐには始まらないので、最初の1～2週間は見守る。温度が20℃～60℃に上がれば、分解が始まった合図！

※分解が進まないときや、温度が上がらないときは、微生物を応援するため、生ごみを入れるのを止め、パワーアップ素材をいれてみる！

分解がうまく進まない場合は、
水分量や空気の量を見直そう！

☆パワーアップ素材☆



食用油

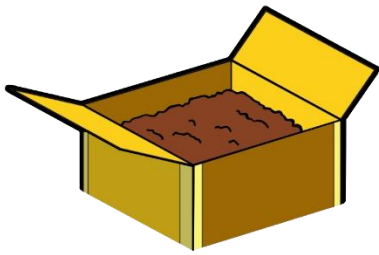


牛脂



米ぬか

STEP 6 熟成して堆肥にしよう！



①3 か月間ほど続け、生ごみの分解が遅くなり、全体にべたつきが出てきたら、投入終了。

②1 か月かけて熟成させる。
1 週目は追加せずにかき混ぜ、たまに水を加える。2~4 週目は、そのまま見守ろう。

③水分や匂いがなくなり、サラサラな状態になったら堆肥の完成。

④できた堆肥は濃度が高いので、3 倍の土と混ぜて使うのが Good！

※すぐに使わないときは、乾燥させてビニール袋に保存しよう。

実際の様子

だんだん中身が黒くなってくる



開始直後

水気がなく、サラサラな状態



開始 1.5 ヶ月後

- ・ 水気が出てくる
- ・ 分解中の生ごみも増える



開始 3 ヶ月後

- ・ 水気が多く、固まりができる
- ・ 分解が遅くなる



成功するためのコツ！

○毎日かき混ぜて、中に**空気**を入れてあげるよう！

- ・ 微生物は、酸素を使って生ごみを分解するので空気が大事です。

○生ごみはしっかり**水**を切って、入れすぎない！

- ・ 水が多いと分解が進まず、虫や腐敗菌の繁殖の原因に...

○**温度**を見て、コンポストの状況を把握しよう！

- ・ どうしても温度が上がらないときは、パワーアップ素材を入れたり、箱のまま天日干したりするのも効果的です。